

第8課「霊の結ぶ実は誠実」

* 「誠実」の「誠」とは、「真実」「真心」という意味がある。「実」は、まさしく実現される結果であって、今期の学びの鍵となる言葉である。ちなみに「誠」という字を見ると、新撰組の旗印を思い出す。それは「真実の武士でありたい」という願いが込められているという。私たちも「真実の神の民でありたい」と思う。

1. 「誠実」という言葉について

- **「誠実」と「忠実」**：今週の聖書研究ガイドにおいては同義語として紹介されている。「誠実」とは「私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対すること」(大辞泉)。「忠実」とは「真心をこめてよくつとめること」(大辞泉)「真心をもって仕えること」(大辞林)とある。いずれにおいても「真心」をもって事を成す事である。
- **関連する言葉(類義語)**：「忠誠」「堅実」「不動」「堅固」という言葉が紹介されている(聖書研究ガイド53p参照)
- **「信仰」との関連**：密接な関係はあるが、同じではない。「信仰」は神の賜物(ヘブライ11:1)であり、「忠実(誠実)」は、信仰の現れであり、実際に信仰を行動によって示す事である。

2. 神は真実である

- **神の真実**：「真実」とは「嘘偽りのない」「本当である」こと。神は、まさに完全な「真実」を持ち、それは不変(変わらない)であり、また不偏(偏らず、公平、平等)である。私たちは、神の「真実」を模範とする。
- **神の真実の特性**：①広範囲に及ぶ(詩篇36:6) ②確実である(詩篇89:34) ③偉大である(哀歌3:23) ④天に備えられている(約束されている。詩篇89:3)。
- **神の真実の結果**：神は真実であるという前提のもとに、①あらゆる試練を乗り越える知恵と力、そして導きが与えられる(1コリント10:13) ②キリスト再臨における栄化(1テサロニケ5:23~24) ③私たちを強め(忍耐)、保護(悪から)される(2テサロニケ3:3) ④確実な約束と希望を備えて下さっている(ヘブライ10:23)。

3. 信仰と不信仰

- **終わりの時の徴**：イエスは終わりの時代における再臨の前兆について教えられている(マタイ24:1~31、2テモテ3:1~5)。そして、その時には多くの者が失望を経験し信仰を失う事が示されている(ルカ18:8)。悪がはびこり善が退けられ、行ないにくくなってしまふ。再臨の時に地上において信仰を見いだせるのか?と嘆くような現実が訪れる事を警告している。しかし、神は救いに対する最善の導きを用意され、一人でも多くの人々が救われるようにと期待され、イエスによって備えられた(ヨハネ3:16)。確かに救われる者と、そうでない者があることは事実であるが(ルカ17:34~35)、神は全ての人に、それぞれの事情に応じて導かれ、等しい愛を傾けて下さっている。救いの実現については、むしろ私たちの側の信仰、神との結びつきが問題となる。しかし、神は絶えず、罪人を神の息子、娘として受け入れて下さっており、希望と約束を与えて下さっている(ルカ21:28)。
- **信仰の模範**：ヘブライ11章において、信仰の模範となる人々(アベル、エノク、ノア、アブラハム、サラ、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ラハブ、他)が示されている。彼らは決して突出した特別な超人ではない。それぞれに、あらゆる弱さを持つ人間の代表として紹介されている。彼らは、その人間的な弱さを、神に対する信仰、愛の繋がり(信頼、忠実、誠実)によって乗り越える模範である。彼らは、神を無視して、自らの知恵や力、経験に頼る事を愚かな事と実感し、神に全てを委ね(神に対する絶対的な信頼と愛)、苦難に打ち勝ち、天国を約束された。
- **日々の忠実**：私たちの日々の生活において、どんな小さい事でも大事にのぞむように忠実であるように、神は勧められる(ルカ16:10)。私たちは、どんな事をどのようにするべきかを考える前に、まず神の前に跪きたいと思う。そして、「忠実」が、ごく自然なことであるように振る舞いたいのである。それは意識しなくても当たり前の事として日常的でありたい。そのために私たちは神から学んでいるのだと思う。神と人に対して、信頼され、正直であり、誠実であり、忠誠を尽くせるような品性を築き上げる事が私たちの務めなのかもしれない。そのようにしてキリストの香りを放つ者、キリストの福音を届ける者となれたら幸いである。
- **終わりまで(いつまでも)忠実**：私たち人間は、決して善い者ではない。弱く、愚かで、自己中心的である。また、人に仕える事を嫌い自分を他より優位に置きたい(優越感)と思う。そのために他者を値踏みしたり、差別したり、比較する。実際のところ臆病であるのに偉ぶったり強がったりする。権威主義にへつらい、本音と建前を正当化し裏表を持つ事を擁護する。また、他者に対して無関心で、自分の意に添わないことについては面倒くさく思ったり、無視をする。表面を取り繕いその場を上手にやり過ごしたと満足したりする。他者が関知しないところでは傍若無人に振る舞う(マタイ24:44~51)。私たちは、イエスの模範に従う者として、常に誠実でありたい。神に忠実な者として、油断する事なく、常に備えの油(聖霊との繋がり)を持ち続けていきたい(マタイ25:1~13)。イエス・キリストが再びおいでになるその時まで、神に対して、また人に対して「誠」の旗のもとに真心をもって仕えていけたら幸いである。